

福井城史料調査の結果

○総 括

- ・ いずれの施設も、平面図、立面図、外観、内装のすべてが分かる完全な史料は確認できていない。
- ・ 御廊下橋、舎人門の復元時と同様に、他城郭の史料等をもとにした考証を行い、復元のための設計をすることが必要である。
- ・ 復元にあたっては、時代設定に留意する必要がある。

○施設ごとの調査史料等

施設名	平面関係	立面関係	外観等	現 況
本丸御殿	「御本丸御殿ノ図」他	—	「福井城舊景」	県庁舎等が立地
御天守	「御天守絵図」	「御天守絵図」	「御天守絵図」	天守台が残存
御座所	「御座所御絵図」他 <u>試掘調査を実施</u> <u>明治期の図面等を確認</u>	—	「福井城舊景」	中央公園等
櫓	坤櫓	—	「福井城舊景」他 城下絵図	更地
	巽櫓	—	写真 「福井城舊景」他 城下絵図	更地
門 A	瓦御門	「御本丸御殿ノ図」他	写真 「福井城舊景」 城下絵図	枳形石垣が撤去済み
門 B	下馬御門	—	<u>石垣写真を確認</u> 「福井城舊景」 城下絵図	民間施設または道路
	桜御門	—	「福井城舊景」他 城下絵図	道路の可能性
門 C	山里口御門	「御本丸御殿ノ図」他 基礎石の遺構確認済み	石垣に柱跡あり 写真（一部） 城下絵図	枳形石垣が残存
門 D	中仕切御門	—	—	城下絵図 道路の可能性

※アンダーラインは今回の調査で新たに確認された史料等

○施設ごとの調査結果（詳細）

本丸御殿

- ・「御本丸御殿ノ図」等から、本丸御殿の間取りが把握できる。

御天守

- ・「御天守絵図」に、天守台の配置が記載されており、天守台の発掘調査を行い、絵図面の寸法と合致することを確認できれば、復元可能性は高い。図面上の大きさより、現況の方が一尺ほど大きい、礎石位置はほぼ合致する。
- ・同絵図は、寛文大火後の再建のための図面との意見もあるが、建築の形式をみると初期のものと考えられる。史料の年代を解明する必要がある。

御座所

- ・「御座所御絵図」等から、御座所の間取りが把握できる。
- ・発掘調査を継続し、御座所の遺構を確認する必要がある。

坤櫓、巽櫓

- ・写真が存在する。発掘調査により平面位置を確認できれば、復元可能性は高い。
- ・隅の柱位置にある土台の石にはノミの跡もあり、天端の石垣自体は残っている。

瓦御門

- ・写真が存在する。枡形の石垣が壊されているが、地下には石垣基礎が残る可能性もあり、平面位置が確認できれば、復元の可能性は高い。
- ・基本的な城の構造を復元するという点で、枡形石垣を復元する価値は高い。
- ・現況は自動車等の出入り口となっており、県庁舎等の移転時に、復元整備の在り方を検討することが適当である。

下馬御門、桜御門、中仕切御門

- ・桜御門は、絵画史料が多数残っている。
- ・現況が道路などであり復元は難しい。将来的に道路の付替えがあれば、跡地での復元を検討することは可能と考えられる。

山里口御門

- ・現況で、当時の枡形石垣が残り、石垣には柱跡や屋根の傾斜跡が残っているため、短期的な復元の可能性が最も高い。
- ・地盤面が約1m上がっているため、本来の姿にするなら、その分掘り下げる必要がある。周辺との段差が生じる点を対処する必要がある。